

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森
Tel: 04-7132-8800
Fax: 04-7132-8806
Email: info@konbukuroike.com
URL: <http://www.konbukuroike.com>

2023年10月

第114号

主な予定

10月6日(金)

7日(土)

トラップ調査補助

10月26日(木)

11月9日(木)

9:55~10:40

柏市観光協会主催「市内見
学バスツアー」

11月3日(金)

14:30~15:20

柏歴史クラブ(戦跡ツア
ー) (34名)

夜の昆虫観察会

徳永 さと子

7月22日(土)午後7時より、今年で5年目となる『夜の昆虫観察会』が、柏の葉 T-SITE 様のご協力のもと開催されました。16家族(柏市12家族、流山市3家族、我孫子市1家族)34名の親子と、15名のスタッフ、総勢49名が管理棟前に集合し、賑やかなスタートとなりました。



受付を済ませた参加者の皆さんには、持参いただいたヘッドライトや懐中電灯にセロファンなどを巻いて、赤い光が出せるように細工をしていただきました。少しばかり面倒な作業ですが、これには2つの目的があります。ひとつは観察する昆虫を驚かせない為です。昆虫の可視波長は300nm~600nmと言われます。一方、昆虫の目は760nm以上の長い波長である赤い光をほとんど感知できません。細工をしたヘッドライトの赤い光は、昆虫を驚かせない優しい光である為、逃がすことなく、じっくりと観察できるというわけです。

逆に、多くの昆虫は光の刺激に反応して光の方向に集まる、“正の走光性”を持っています。特に200nm~380nmの短い波長である紫外線

に強く反応します。『夜の昆虫観察会』では、この習性を利用して光に集まる昆虫を観察できるライトトラップがすっかりお馴染みとなりました。

ふたつ目の目的は、我々人間の目を眩惑から守ることです。虫探しに夢中になっていると、うっかり近くの人顔をライトで照らしてしまったり、自分が他の人のライトの強い光を見てしまったりということが起こります。すると、目は暫く見え辛い状態となり、暗い森の中では危険です。そこで、ライトを赤い光にしておけば、目が受ける刺激を軽減することができます。今回はライトに細工を施しましたが、ヘッドライトや懐中電灯の中には赤い光に切り替えられるものがあったり、最近ではスマホのアプリで赤い画面を出せるものもありますので、今後便利に使えそうです。

挨拶の後、簡単に注意事項等をお話して、いよいよ観察会のスタートです。

6～7家族ずつ3班に分かれ、1班はこんぶくろ池方面へ、他2班はノジトラノオの草地方面へ出発しました。観察用の虫かごを手にしたお子さん達は、虫に会えるのが待ちきれないといった風で、暗くなりかけた園路を躊躇なくどんどん進んでいきます。まず見つけたのは、セミの幼虫。これから羽化する場所を探して歩いているところでした。時間が経てば、羽化の瞬間が見られるかもと、期待が高まります。草地エリアで待っていたのは、カマキリやバッタ達。お子さん達は、園路を塞ぎそうに茂ったハギやススキの葉などはものともせず、茂みに目を凝らして昆虫を探していました。マメ科の植物に集まるシロコブゾウムシもこのエリアの常連さんとなりました。



ライトトラップエリアでは、近くに巣を作っていたモンズズメバチが光に集まって来てしまうというハラハラした場面もありましたが、これもスズメバチの習性を知る良い機会となりました。同じスズメバチの中でも、モンズズメバチは日没後も活動します。何故か？モンズズメバチが幼虫に与える餌は、セミがメインなのだそうです。夜は、地中から出てきたセミの幼虫や、羽化したてや休んでいる成虫などを、他のスズメバチに邪魔されることなく狩ることができる好機なのでしょう。同じスズメバチの種類の中でも、活動する時期や



サホコカゲロウのオス



コバネイナゴ



キマワリ



カラスウリの花

時間帯、餌の種類等を変えることによって、上手く住み分けの工夫がされているのかもしれませんが。

トラップでは他に、コガネムシや小さな蛾の仲間、カミキリムシ、ハゴロモ、カゲロウの仲間などを観察できました。トラップの後ろのクヌギの樹液では、コクワガタを見つけたグループもいましたが、残念ながらカブトムシには会えませんでした。

夜の園路では、今年もセミの羽化の様子を観察できました。カシノナガキクイムシの被害にあったコナラが目立つ中、せん孔口から出た樹液には、シタバガの仲間が飛来していました。お尻に卵のバッグをつけたゴキブリを見つけたお子さんがいましたが、参加された皆さんはどなたも悲鳴をあげることなく、写真を撮るなどして観察されていました。皆さん、流石です！

ワタラセツリフネソウの草地では、今年も幾つものカラスウリの花を観察できました。夜にしか見られないエレガントな花は、大人の皆さんに大人気！たちまち撮影会が始まりました。そんな時間が少しじれったい表情のお子さん達は、ここに来るまでにお互い打ち解けた様子で、一緒にバッタ探しに勤しんでいました。

8時半過ぎに管理棟前に戻り、それぞれが持ち寄った昆虫をみんなで観察し、“虫合わせ”をしたところ、種名が分かるものだけで約50種の昆虫や生き物を確認できました。参加者の中に他のフィールドで活動されている方が居られ、ご経験から種の同定にご協力いただきました。また、日頃から野外観察をされていらっしゃる親子は昆虫に詳しく、探すポイントなどを押さえていらっしゃることに興味するなど、やはり多くの方のご参加で学ぶことも多い観察会となったと感じます。お帰りに、会員提供のカブトムシやクワガタ、そしてセミの幼虫の同定表をお土産にお持ちいただき、今年度の『夜の昆虫観察会』は無事に終了いたしました。

開催にあたり、ご協力いただきました T-SITE 様、スタッフの皆様、この場をお借りしてお礼申し上げます。

写真提供：高橋浩子、戸巻朋子、徳永さと子



【観察できた昆虫・生き物種名一覧】

コウチュウ目			チョウ目		
1	ゴミムシの仲間	オサムシ科	32	タケカレハ(幼虫)	カレハガ科
2	オオヒラタシデムシ	シデムシ科	33	ヤマダカレハ(幼虫)	カレハガ科
3	アオドウガネ	コガネムシ科	34	コシロシタバ	ヤガ科
4	コフキコガネ	コガネムシ科	ハチ目		
5	ピロードコガネ	コガネムシ科	35	モンズズメバチ	スズメバチ科
6	マメコガネ	コガネムシ科	36	コガタスズメバチ	スズメバチ科
7	コクワガタ	クワガタムシ科	37	クロスズメバチ	スズメバチ科
8	ノコギリクワガタ	クワガタムシ科	ゴキブリ目		
9	コメツキムシの仲間	コメツキムシ科	38	ヤマトゴキブリ	ゴキブリ科
10	サビキコリ	コメツキムシ科	カマキリ目		
11	ナミテントウ	テントウムシ科	39	オオカマキリ	カマキリ科
12	ナガゴマフカミキリ	カミキリムシ科	40	コカマキリ	カマキリ科
13	キボシカミキリ	カミキリムシ科	41	ハラビロカマキリ	カマキリ科
14	キマダラミヤマカミキリ	カミキリムシ科	トンボ目		
15	ヨツボシケシキスイ	ケシキスイ科	42	オオアオイトトンボ	アオイトトンボ科
16	シロコブゾウムシ	ゾウムシ科	ナナフシ目		
17	コシマゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	43	ナナフシモドキ	ナナフシ科
18	キマワリ	ゴミムシダマシ科	ハサミムシ目		
カメムシ目			44	ハサミムシの仲間	ハサミムシ科
19	アオバハゴロモ	アオバハゴロモ科	アミメカゲロウ目		
20	スケバハゴロモ	ハゴロモ科	45	カマキリモドキ	カマキリモドキ科
21	アブラゼミ	セミ科	カゲロウ目		
22	ニイニイゼミ	セミ科	46	サホコカゲロウ	コカゲロウ科
23	チャバネアオカメムシ	カメムシ科	その他の生き物		
24	アカスジキンカメムシ	キンカメムシ科	クモ目		
バッタ目			47	シロカネグモの仲間	アシナガグモ科
25	ショウリョウバッタ	バッタ科	48	イオウイロハシリグモ	キシダグモ科
26	ショウリョウバッタモドキ	バッタ科	有肺目		
27	ウマオイの仲間	キリギリス科	49	ヒダリマキマイマイ	オナジマイマイ科
28	ヤブキリ	キリギリス科	等脚目		
29	ササキリ	キリギリス科	50	オカダンゴムシ	オカダンゴムシ科
30	オンブバッタ	オンブバッタ科			
31	エンマコオロギ	コオロギ科			
☆ 種名がはっきり確認できなかったものは、"~の仲間"として加えました。					
☆ 科名,種名が複数考えられるものは、記載していません。					

【参加された皆さんからの感想】

- ◆ カマキリモドキやナナフシをつかまえることができ、とてもうれしかったです。会員の方々のサポートのおかげで、安心してじっくりと昆虫観察ができました。ありがとうございました。
- ◆ みつけるのが大変だったけど、楽しかったです。
- ◆ とても楽しかったです。また来年も参加させて頂きたいです。ありがとうございました。
- ◆ 夜ははじめてだったので、たのしかったです。
- ◆ のんびりいろいろ見れて楽しかったです！

- ◆ 親の存在を忘れる位、子供が熱中して虫探しをしていて、良い経験になりました。ありがとうございました。
- ◆ ガイドさんの説明も付いていて、凄く楽しかった。また違う季節に来たいです。
- ◆ 昆虫はよく見ますが、“夜の”は初めてですので、良い経験になりました。
- ◆ 夏にぴったりのイベントでした。子供の感性を育む上で、良い企画だと思いました。
- ◆ いろいろな昆虫を見ることができ、子供がとても喜んでおりました。昆虫図鑑を見て復習しようと思います。
- ◆ 楽しかったです。
- ◆ 夜の雑木林に入り、色々な虫を探す経験は、中々出来ないので楽しかったです。また参加できればと思います。
- ◆ 昆虫をたくさん見れて、子供が楽しんでいました。
- ◆ カマキリモドキを初めて見ました。

ユネスコ大会にて当 NPO 活動についての発表を行いました

中川 望

9月3日(日)に、関東1都5県のユネスコ会員が一堂に会する大会である「2023年度関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 東京」が青山学院大学にて開催されました。この大会は、全体会(約400名参加)と分科会で構成され、分科会は第1分科会「異文化理解・国際交流」、第2分科会「世界遺産・未来遺産」、第3分科会「科学・環境、ユネスコスクール」の3つに分かれ、各々2テーマずつ発表されました。

当大会の開催に先立つ本年4月に、我々の地元である柏市の柏ユネスコ協会より要請を受け、このうちの第2分科会「世界遺産・未来遺産」で萩原理事長が「こんぶくろ池自然博物公園～市民で育てる百年の森プロジェクト～」の発表を行うことを受諾しました。

当日の萩原理事長の発表は、前半20分が説明、後半の10分が質疑応答でした。説明の内容は、①こんぶくろ池自然博物公園について、②NPOの活動について、③プロジェクト未来遺産2022応募の背景、④NPOの活動とSDGsの目標とターゲットとの関連性、というものであり、その後の質疑応答も活発に行われました。なお、この第2分科会は参加書が150名超と最も多く、当分科会の開催場所としては全体会開催場所と同じ大ホールが使用されました。“未来遺産”に対する関心の高さを痛感しました。



このように、今回の「プロジェクト未来遺産 2022」の登録決定のインパクトには非常に大きいものがありますが、これは言い換えると「こんぶくろ池自然博物公園の豊かな自然環境を守り続けていく責任がより一層強まった」ことでもあると思います。したがって、今後は①当園の自然環境を守り続けていく人材の継続的な確保、②当園の湿性環境を維持していくための水源の永続的な保持、③環境教育の場としての当園のより一層の有効活用、等々の課題への対応が求められます。皆様と力を合わせ、“市民で育てる百年の森”である当園を、これからも守り続けていきたいと思います。

国鳥キジ

橋本谷 弘司



キジ (♂)
(ウイキペディアより)

お隣の松戸市に「21世紀の森と広場」という名前の公園があり、今年で開園30年になります。開園当時は、ノウサギ、イタチ、タヌキ、キジなどの姿が時折り目撃されていましたが、現在ではタヌキだけが暮らしているとのこと。当園では、イタチについてはわかりませんが、ノウサギ、タヌキ、キジは現在も確認されています。

キジは鳥類ですが、飛ぶのは苦手で、採食しながら歩き回り、警戒すると草むらに背を低くして隠れてじっとしています。

ノウサギ、タヌキは夜行性の動物で昼間はたまにしか見ることはできませんが、藪や草むらに隠れています。また、ウグイスの「ホーホケキョ」という鳴き声は何度も聞きますが、藪の中に隠れていてなかなかお目にかかれません。小動物や鳥にとっては藪や草むらが生きいく上で必要であり大事にしていきたいものです。

国鳥キジについてですが、GHQ（連合国軍最高司令部）のある部署の人が、日本のいろいろな事を詳しく調査したところ、日本の野鳥があまりに少なく、保護が必要だと強く訴えたそうです。そのため、当時の文部省が日本鳥学会に依頼して、昭和22（1947）年3月に、日本の国鳥として「キジ」が選ばれることになりました。選考基準は、①日本の固有種であること、②留鳥であること、③美しいこと、④肉が美味しい、⑤イメージの5項目です。選定されたのは戦後すぐですので、④の基準は今とは時代背景が違うからだと思います。⑤のイメージのひとつは、昔話に登場する有名な桃太郎は、イヌ、サル、キジを家来にし、鬼ヶ島まで鬼を退治に行く物語です。ちなみに、千葉県は「ホオジロ」、柏市は「オナガ」です。



当園で撮影
(不鮮明ですが)